

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	四季を感じてもらえるように、外出したりホーム内で楽しみたいと思います。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	日々の介護をする中で、希薄になりがちな理念の意識を持続けることを、心がけたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	入所時に家族の方には、理念の説明をしているが、定期的に理念とそれに沿った介護を実践していることを伝えて行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	消防訓練を行う時に、町内の方も参加してくれています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	職員が地域の神社の清掃や、溝掃除に参加しているが、今後いっそうの地域活動、行事への参加を行いたいと思います。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○	地域の高齢者の方々が、参加できる会を増やして行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○	入浴日を1階・2階と同じ日にしていたのを指摘していただき、曜日をずらして、いつでも入浴可能にした。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○	地域のボランティアの活用や、レクリエーションに家族の方が参加しやすい日時の選択等に活用している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○	はなまるで実際に行った、ターミナルケアの実践報告会の開催の依頼を、市町村担当者から受けている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○	地域福祉権利擁護事業を活用している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○	入居者さんに虐待されたことはないか、他の人が虐待されているのを見たことがないか、またこれからも虐待を受けたら誰にでもいいから相談していただくようお願いしている。
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の介護において、入居者の方々の意見や、要望は聞き入れるようにしている。運営推進会議にも入居者の方々に参加していただき、意見を頂戴して運営に反映させるようにしている。	○	どこかに出かけたい、という意見をレクリエーションに反映させて、企画運営している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のはなまる便りで、日々の入居者さんの暮らしぶりや、健康状態、ヒヤリハット、職員の情報を報告している。	○	毎月、家族の方々がはなまる便りを心待ちにされていると伺い、うれしく思っています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置して、苦情、不満、意見等頂けるようにしている。また、相談窓口担当者を設けて常時対応できるようにしている。外部の相談機関の案内もしている。	○	なかなか「ご意見箱」に当初していただけないので、定期的に家族へこちらからのアンケートに答えていただくかたちで、意見等をいただくようにしようと思っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、ケアカンファで、様々な意見交換がなされて、運営に反映させている。	○	運営者や管理者は、入居者だけでなく、職員の動向にもきを掛けており、声掛けや指導を通して、意見が反映されている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は、緊急時において、お互い助け合って勤務に臨むという意識は徹底されている。	○	それぞれの職員の家庭の事情を、各職員が理解し助け合うことが、緊急時における、勤務の調整に助かっている事例が山ほどある。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員が働きやすいように、休みの希望は100%近く受け入れ、退職の申し出があったときは、相談に乗り、極力継続勤務を促しているが、やむを得ず退職に到ったときは、他の職員に経過等説明している。	○	退職者本人が入居者さん一人一人にきちんと挨拶して退職していくようにしているが、別れがつらくて、難しいときもある。
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているようにしている	職員の募集・採用時に制限を設けていない。	○	職員は個々の特技を生かした仕事が出来ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は日々職員の言動に留意し、指導を行っている。	○	新人職員には研修を行い、人権教育をしている。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内はその都度職員に向けて、参加を促している。	○	研修に参加した職員は、その研修報告を行い、他の職員が勉強できるようにしている。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や研修を通じ、ネットワークを広げている。	○	まさしく、現在、他のグループホームとの間で、職員の交換研修を実施し、サービスの質の向上に努めている。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者や管理者は日々の職員の動向に目配りし、ストレス軽減に努めている。	○	職員が相談しやすい環境が確保されるように、取り組んで行きたいと思う。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の勤務状況を把握し、働きやすい職場になるように努めている。	○	職員の希望休・有給休暇がとりやすい環境をつくっている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に細やかなフェースシートを作成し、相談や希望を承るよにしている。また職員一人一人が入居者さん一人一人に目配り、気配りを怠らず、意見を傾聴し、受け止める努力をしている。	○	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	運営推進会議やレクリエーションに参加していただいた折に、家族の方々と交流を持ち、意見を聞くようにしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたり、こちらが状況を判断したときに、介護の改善に努めている。	○	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずははなまるに馴染んでいただけるように、家族の方の面会の頻度を調整したり、職員もできる限りその方の、今までの生き方に配慮した対応をするようにしている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者さんとは、一緒に生活している家族のように接し、本にができることはなるべくしていただくようにしている。また職員のほうが教えていただくことが多く、そのことが本人の自信につながると思う。	○	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方も、自由に訪問され、職員と日々の様子のことや、その他の会話をし、楽しい時間をすごしている。	○	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	その家族個々の事情を理解して対応し、よりよい本人と家族のかかわりが築けるよう支援している。	○	家族の意向ばかりに重きを置き、入居者さんのことがないがしろにならないように、注意を払っている。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、はなまるに入居者さんのお友達や知り合いの方が、訪問されてもよい環境をつくっている。	○	レクリエーション等にご家族やお友達の方の参加を促し、ともに楽しんでもらっている。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	コミュニケーションがとりにくい入居者さんには、職員が介入し、各自にストレスにならないよう、意思の疎通が取れるようにしている。	○	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の入居者さんの、退所先などの紹介やお見舞い、その後の情報交換を大切にしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重した対応を心掛けている。本人の自己決定を最優先している。	○	
36 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のフェースシートを把握し、サービス計画の見直しを長期目標、短期目標それぞれ常に検討している。	○	
37 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の心身の状態や変化などは、生活日誌や申し送りで職員に周知徹底している。	○	健康管理には特に気をつけ。毎日2回のバイタルチェックや食事量、水分摂取量に留意している。また朝の挨拶など、規則正しい生活を送ってもらい、生活のリズムを整えるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングやケアカンファで、入居者さんに個々の現状を把握し、本人にとって最も望ましい介護計画を作成するようにしている。	○	
39 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期短期の介護計画を、本人の状況と家族の希望を聞き、会議において、職員間で話し合い、計画を作成するようにしている。	○	
40 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活日誌や業務日誌の記録を活用し、職員間の情報を共有し、介護の実践と介護計画の見直しに生かしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	レクリエーションや誕生会、避難訓練などを家族に連絡し参加してもらっている。 ○	AEDを設置し、家族の方と共にその使い方の訓練もしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア（三味線、ハーモニカ、将棋など）の方々が来訪してくれている。中学生の職場体験や、学校の先生の他業種体験も行っている。定期的に消防署の職員さんの指導の下で防災訓練も実施している。 ○	
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	出来ていない ○	今後の課題にしたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において、地域包括センターの職員の方々から様々な情報や意見をいただき、入居者さんの生活に生かすようにしている。 ○	
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設立時からのかかりつけ医と提携し、体調不良になった際には、すぐに適正な衣料を受けられるよう支援している。 ○	つきに2回の往診と、必要に応じた往診ができるようになっている。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの医師や、認知症の専門医があらゆる相談を受けていただけるようになっている。 ○	認知症の専門医の下、勉強会を開催した。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ケアマネジャーが看護師の資格を有してるので、常に入居者さんの健康状態を相談することができる。 ○	ケアマネジャーが看護師の資格を有してるので、入居者さんの体調が急変した場合でも、かかりつけ医と速やかに連絡を取り、対応できる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者をはじめとし、他の職員が頻繁にお見舞いに行き、病院関係者と情報交換し、早期退院に努めている。	○	電話連絡等で、病院関係者と連絡を密にし、こちらの受け入れ態勢を報告し、早期退院できるように努めている。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族の希望を聞いたうえで、主治医と話し合い、その結果を職員に周知している。	○	終末期になる前に、家族の方とそのことを話し合っておく必要があると思う。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期における介護のあり方は、職員全員で話し合い、出来ること、出来ないことを把握し、主治医、家族と協力しながら支援して行きたいと思う。	○	たぶん個々で状況や、考え方が異なると思うので、その都度検討しないといけないと思う。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	はなまるから他の施設や自宅に移る場合は、肉体的・心理的なダメージがないように支援している。	○	はなまるから病院へ入院する際や、その病院から他の病院へ転院する際などは、相談を受けたり、お手伝いに駆けつけたりしている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、入居者さんを傷つけないような言葉使いと、記録をするようにしている。	○	もし適切でない言葉使いや、記録があった場合は、その都度注意するか、ミーティングで話し合うようにしている。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できる限り、自己決定の実現と、希望の受け入れをできるように、職員間で意識している。	○	おやつ好みの聞いて、それぞれ違うおやつにしたり、稀にお昼にお弁当を頼むときは、お弁当の写真を見ていただき、おかずの説明をしながら選んでもらっている。また入浴の希望は、本人の意思に沿った入浴介助をするようにしている。等々です。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等に時間のかかる入居者さんがいるが、本人のペースに合わせて、できるだけ自己摂取していただいている。	○	ラジオ体操・足浴・レクリエーションなどは無理しいせず、本人の希望を聞くようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	一人の方に手伝ってもらってばかりだと、身体的にお手伝いが出来ない方から見ると不満になることもあるので、その辺に注意しながら取り組んでいる。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	タバコに関しては、防火の面から職員がタバコとライター、灰皿をあずかっており、希望するときに渡して、なおかつ決められた喫煙場で喫煙してもらっている。
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○	各入居者さんの、排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導をし、快適に過ごせるようにしている。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	一人一人の希望に100%沿うことは出来ないが、1階と2階で入浴日をずらしているため、本人の希望があれば毎日でも入浴することが可能である。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	一人一人の生活リズムを考慮し、お昼寝をしていただいたり、ソファに座ったり横になったりしていただいている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	若いころ看護師として働いていた方にはここでも看護師として働いているようです。また歌を歌ったりトランプや花札将棋をしたりしてそれぞれ楽しんでます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方の了解があれば、お金を所持することは可能です。その際職員はその管理をすることはありません。その上で本人がお金を管理し、自由に使う楽しみは実現されていると思います。	○	入居者さんと職員でお買い物に出かけて、好きなものを買って楽しんでもらっています。又は職員に欲しいものを頼んで買ってきてもらったりしています。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人員のかんけいで、入居者さんの希望通りの外出は叶っていないが、お買い物や散歩には極力出ようとしている。	○	ホームを出てすぐに、交通量の多い道路なので、お一人で出かけることもままならないのが残念です。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーションで普段行けないようなところに行っている。春は花見やグリーンパークなど、秋は紅葉狩りやコスモス見物、またショッピングモールへお買い物ツアーも行っている。	○	
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは行っている人がいる。電話も希望があれば自由に出来ます。	○	家族によって電話を掛けてこられると、帰宅願望が強くなるので拒まれることもあります。話し合いによって本人の希望が叶うように支援していきたいです。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・友人などの訪問時は、職員はいつも元気に明るくお迎えし、リビングルームでも、その方の居室でも自由に使っていただいて、訪問を楽しいものにしてもらうようにしています。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の研修や、勉強会で職員に理解を深めてもらい、身体拘束をしないケアを実践している。	○	研修に行くと、今までは身体拘束とは思っていなかった行為が、実は身体拘束に当たる事例があり勉強になった。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内全ての施錠は、危険な台所の刃物があるところだけで、基本的にはしていない。	○	ただ外部につづく鍵は、周りの道路事情や防犯の観点から施錠をしている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員間の声掛けや目配りにより、入居者さんの所在や様子の確認をするようにしている。また入居者さんの居室に入るときも声かけし、勝手に居室に入らないようにしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者さんの状態によって、それぞれのテーブルに置くものを考えたり、椅子を回転するものにするか回転しないものにするか、など考慮している。	○	
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	就寝時のベッドからの転落を防ぐ為に、柵を取り付けたりベッドの下にセンサーを置いたりしている。また薬のチェックは複数人で2重3重行っている。行方不明にならないように入入口には施錠しセンサーも取り付けている。火災を防ぐ為に定期的に防災訓練を実施し、このたびはスプリンクラーも取り付けた。	○	それでも起こってしまった事故やヒヤリハットは、その都度職員間で話し合い検討し、改善するようにしている。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に4回の防災訓練を実施し、職員全員が初期消火・119番通報・避難誘導・救急蘇生並びにAEDの使用方も熟知している。	○	
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練に地域の方の参加を働きかけ、地域の協力を得られるようにしている。	○	
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人のリスクを推察し、家族の方の協力をいただいて、その人いあったベッドセンサーの取り付けや、車椅子の選定などしている。	○	
78				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見ができるように、職員間の連携を持ち、気付いたときには速やかに情報を共有できるように、緊急連絡網等を活用している。	○	
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的・用法を理解し服薬の支援を行っている。服薬による症状の変化を確認し適切な対応ができる。	○	薬の副作用を全て理解しているとは言えない。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の回数や量、間隔を記録し、職員間で共通の意識を持ち、食事量・水分摂取量・運動量等を把握し、薬をその都度調整して便秘にならないような支援をしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その人に合った口腔ケアを心掛けている。自分でできない方には職員が最低限の介助をしている。	○	毎食前後のうがいの励行や、食後の歯ブラシや、口腔ケア用のスポンジなどで、口腔内の衛生を保ち口臭がしないように、また肺炎にならないように注意している。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分摂取量を、それぞれの生活日誌に記録しひと目で分かるようにしている。	○	
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホームに入ってくるときは、入居者さん・家族・職員にかかわらず、必ず手の消毒うがいをするようにしている。また感染症に対するマニュアルを作成し職員が周知している。	○	
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は業者に依頼しているが、入荷のたびに職員が検品し異常があるかどうか確認している。食器や調理用具は食器洗浄器により洗浄と高温の乾燥による殺菌を行っている。尚且つ、まな板については3ヶ月おきに新品に換えている。	○	
82 (1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先については、植木があり、また花を飾ったりしているので親しみ易いと思うが、その他の建物周辺は出来ていないと思う。	○	建物周囲には、勝手口や軒先があるが、そこを出入りする職員の溢れる笑顔で親しみ感を出している。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には、ボランティアの方が作成した季節の花や手作りの貼り絵を飾っている。お風呂にも季節感が感じられるような写真を貼って、銭湯さながらの雰囲気を出している。	○	
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを置き、仲の良い入居者さんどうしや、お一人で窓の外を眺めることができる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が暮らしていた状態にするため、使い慣れた筆筒などの家具を持ち込んでいただくようにしている。	○	
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	屋内にある換気扇は常に稼働している。空気が乾燥する季節にはリビングとそれぞれの部屋に加湿器を置いて湿度を保っている。リビングには床暖房を設置し快適な冬を過ごしている。又それぞれの居室のエアコンを活用し、こまめな空調を行っている。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングと廊下には手すりが取り付けられており、独歩可能な方はそれを利用して移動している。そうでない方も職員の介助と手すりを利用して移動をしている。それも難しい方は、バリアフリーの屋内を利用して歩行器や車椅子で安全に快適に生活している。	○	
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングには時計や大きなカレンダーを置いて、今日が何年の何月何日で何時か分かるようにしている。	○	
89	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや庭のプランターに花を生けている。	○	まだまだ狭い庭でも有効利用が、入居者さんと共にできると思うが充分実施できていないと思う。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者の
		☐ ②利用者の2/3くらいの
		☐ ③利用者の1/3くらいの
		☐ ④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある
		☐ ②数日に1回程度ある
		☐ ③たまにある
		☐ ④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者が
		☐ ②利用者の2/3くらいが
		☐ ③利用者の1/3くらいが
		☐ ④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族と
		☐ ②家族の2/3くらいと
		☐ ③家族の1/3くらいと
		☐ ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

はなまるでは「地域で仲良く、自信と笑顔」を理念として、いつも明るく元気な笑い声の絶えないグループホームを目指してきました。その実践も出来ていると自負して